

Sci. Rep. Tôhoku Univ. Ser. 2, **30**: 112).

Explanation of Plates I, II

Pl. I. Fig. a. Crude diatomaceous earth ($\times 450$. Shimonishi). b, c. *Coscinodiscus elegans* (b. $\times 700$. c. $\times 9000$. Minoura).

Pl. II. Fig. a, b. *Coscinodiscus elegans*. (b. Girdle view: note the papillate loculi on valve surface.) c-e. var. *minutus*, var. nov. (d. Holotype. c, e. Paratype.) f-h. *Denticula lauta* var. *valida*. i-m. *Coscinodiscus marginatus*. (a. $\times 330$. b-g. $\times 1000$. h. $\times 3000$. i-l. $\times 500$. m. $\times 4000$. a. Tsutsuka. b-e, l. Kamo. f, h, m. Minoura. g, i, k. Okutsudo. j. Shimonishi.)

○高等植物分布資料 (35) Materials for the distribution of vascular plants in Japan (35)

○ナンブソウ *Achlys japonica* Maxim. 北海道・本州の冷温帯に分布し、清水大典氏により、山形県の吾妻山大平のものが、南限として報告されている。(つち団子・第3号)。1964年6月7日、福島県南会津郡下郷町大字白岩地内に於て、同地出身の玉川岩雄君の教示により、池上義信、斎藤慧、馬場義仲氏等と共に、又見山山麓の風穴(標高 300m)を観察した。この折、冷風の吹き出す風穴の出口附近に、シモフリゴケ、ダチョウゴケ、カギハイゴケ属などの中から、やゝ花期のすぎたナンブソウを見ることができた。マルバアオダモ、エゾツリバナ、エゾイボタ、ノリウツギ、フサザクラ、オオバボダイジュ、サワシバ、ネジキ、チョウセンゴミシ、ウゴツクバネウツギ、カスミザクラ、ヨグソミネバリ、ハシドイなどがつくる灌木林床に、安山岩塊が積み重なり、3アールほどの広がり、蘚類と共に、ナンブソウが、散生しており、このほか、風穴内には、ミヤマメシダ、ミヤマワラビ、オゼザサ、イワシロイソデ、ヤマドリゼンマイ、ミヤマハタザオ、コキンバイ、ハイイヌツゲ、クルマユリ、アイズシモツケ、ペニバナイチヤクソウ、ミズギクなどが見られ、附近に、コカンスゲ、ミヤマクマワラビを見ることができた。

ここに、ナンブソウの新産地として報告し、標本を福島県立若松女子高校におく。なおすぐ近くの下郷町大字湯の上地内には、オオタカネイバラの産地として、本年文化財指定を受けた中山風穴があるが、ここにはナンブソウを見ることができなかった。何れも遺存種と考えられる。種々御教示を賜わった池上義信先生に感謝申し上げます。

(福島県立若松女子高校、折笠常弘)